

田辺湾周辺海域の腔腸動物 剛水母目(刺胞動物門, ヒドロ虫綱)

久保田 信

Faunal list of Coelenterata collected from Tanabe Bay and its vicinities.
Order Narcomedusae (Phylum Cnidaria, Class Hydrozoa)

SHIN KUBOTA

剛水母目は底生生活性のポリプ世代をもたず、雌雄の成熟クラゲの有性生殖により体外受精で誕生したプラヌラ幼生が海中で直接クラゲへと成長する。従って、この目のクラゲは外洋で一生涯を過ごす。ただし、他のヒドロクラゲ類に幼体時に寄生するものも多く知られる。ヒドロクラゲ類中、唯一、口柄を形成しない特徴を有する本目のクラゲは、他に以下のような形態的特徴を持つ: 傘縁触手は傘縁からではなく外傘から伸長し、触手瘤も見られない; 傘縁に切れ込みがある; 傘縁には糸状体はない; 平衡器を持つ; 口触手や口唇はない。

本リストでは、田辺湾周辺海域から記録

された剛水母目の全種(参考文献を参照)を学名のアルファベット順に挙げた。また、同物異名は[]中に示すとともに和名があれば付した。

この海域からは3属3種のクラゲが記録されているにすぎない。しかし、日本産のこの目のこれまでの記録は7属9種(久保田, 1998)とごく少数なので、その約1/3の種が田辺湾周辺海域で見られることになる。なお、いずれの種も瀬戸(白浜)付近が模式産地となっていない。

田辺湾周辺海域の剛水母目リスト

クラゲ

- Aegina rosea* Eschscholtz, 1829 ツヅミクラゲ [*Aegina pentanema* Kishinouye, 1910]
Solmaris rhodoloma (Brandt, 1838) ニチリンクラゲ
Solmundella bitentaculata (Quoy and Gaimard, 1833) ヤジロベエクラゲ

上記3種の中で、ニチリンクラゲについては、田辺湾産のものが初めて報告された時には別種 *S. corona* Haeckel として報告された(Yamazaki, 1958参照)。また、*S. insisa* が記

録されている(Komai & Ikari, 1929)が、形態の記載も標本もなく、それも誤同定でニチリンクラゲと推察される。

参 考 文 献

- Kishinouye, K. 1910. Some medusae of Japanese waters. J. Coll. Sci., Tokyo, 27 (art. 9): 1-35, pls. 1-5.
Komai, T. & Ikari, J. 1929. The Seto Marine Biological Laboratory of the Kyoto Imperial University. Its equipment and activities, with remarks on the fauna and flora of the environs. (A revised article). Rec. Oceanogr. Works in Japan, 1(3): 113-129, pls. 27-35.
久保田 信. 1998. 日本産ヒドロ虫綱(8目)目録. 南紀生物, 40(1): 13-21.
時岡隆. 1982. 「海の生物」白浜町誌 自然編 白浜の自然. pp. 165-233, 白浜町.

Uchida, T. 1928. Studies on Japanese hydromedusae
2. Trachomedusae and Narcomedusae.
Japan. J. Zool., 2(1): 73-97.

山田真弓. 1984. 田辺湾産ヒドロくらげ類(II) —
故井狩二郎氏のスケッチから — 南紀
生物, 26(1): 1-8.

Yamazi, I. 1958. Preliminary check-list of plankton
organisms found in Tanabe Bay and its
environs. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 7(1):
111-163.